



日本女性科学者の会

The Society of Japanese Women Scientists (SJWS)

大倉多美子

<日本女性科学者の会について>

前身の「日本婦人科学者の会」は、「女性科学者の友好を深め、研究分野の知識の交換を図り、女性科学者の地位の向上を目指すとともに、世界の平和に貢献すること」を目的とし、平塚らいてう女史、湯川秀樹博士をはじめとする世界平和アピール七人委員会の応援を得て、1958年4月に設立されました。1996年6月に「日本女性科学者の会(SJWS)」と名称を改め、2008年に創立50周年を迎えました。現在日本学術会議協力団体になっています。会員は理学、工学(数学、物理学、化学、生物学、地学等)、医学、薬学、農学、家政学等を専攻する大学、研究機関などに所属する研究者及び企業の研究者・技術者で、幅広い科学・技術分野をカバーし、男性研究者・技術者も活動に参加しています。東北、東海、関西、九州にも支部があります。

<近年の SJWS の活動の流れ>

- 1995 文部省委嘱事業「科学技術系女性人材育成のための調査研究」
- 1996 日本女性科学者の会に改名、第1回奨励賞・功労賞贈呈
ブタベストでの第10回国際女性技術者・化学者会議(ICWES10)に出席し、長を勤め、発表を行う。
- 1997 文部省委嘱事業「サイエンスボランティア-女性たちの出前理科実験」
- 1998 文部省委嘱事業「サイエンスボランティア・科学の芽を育てる地域女性たち」
- 1999 幕張メッセでの第11回国際女性技術者・化学者会議(ICWES11)共同主催
- 2000 ICWES Japan の設立、出前理科実験

<過去10年間のSJWSの活動>

- 自然科学分野の第一線で活躍している会員、非会員の講演会
- 子供向けの理科教室での実験指導
- 「女子中高生夏の学校」(国立女性教育会館、男女共同参画学協会連絡会)などを主催、毎年共催、参加
- 海外の著名な女性科学者招待講演会
- 女性科学者・研究者の地位に関するシンポジウムや交流懇親会
- 学術大会(研究者の発表・講演会・パネル討論会)
- 日本女性科学者の会学術誌の刊行(年1回)
日本女性科学者の会NEWSの発行(年2回)
- 男女共同参画学協会連絡会に加盟(2002年)し、科学・技術の分野で女性と男性が共に個性と能力を發揮できる環境づくり、ネットワーク作りと社会貢献を目指して活動
2004年には日本学術会議19期第4部登録学術団体となり、理学振興研究連絡委員会委員及び科学教育研究連絡委員会オブザーバーとして活動
- SJWSサイエンスコミュニケーター認証制度を発足(2007年)
- 内閣府「男女の仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業」公開シンポジウムを主催(2008年)

<この一年のポジティブアクションに関する主な活動>

- 1、第8回学術大会「光は東北から」—— 結集!地方力 —— 2010年10月 仙台
- 2、新春懇談会「女性研究者支援のあり方について」2011年1月 東京
- 3、第16回日本女性科学者の会奨励賞(2名)・功労賞(2名)贈呈式・記念講演会
2011年6月 東京

*奨励賞:理系分野で研究業績をあげ、その将来性を期待できるもので、本会の目的に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会員に対して、年齢、国籍、性別は問わず、年2名以内に奨励賞を贈呈しています。これまで33名の方々が受賞されています。

分野	分野
第1回(1996年度) 医学(名古屋大) 医学(理化学研究所)	第11回(2006年度) 生物(University of Washington) 工学(産業技術総合研究所)
第2回(1997年度) 化学(東北大) 医学(放射線影響研究所)	第12回(2007年度) 物質工学(豊橋技術科学大学) 医学(日本医科大学)
第3回(1998年度) 医学(京大原子力研究所)	第13回(2008年度) 物理(東大大学院) 医学(福島県立医科大学) 医学(京大大学院)
第4回(1999年度) 化学(名古屋大物質科学研究所) 医学(東京医科歯科)	第14回(2009年度) 工学(岐阜大) 医学(九州大医学研究院)
第5回(2000年度) 医学(札幌医科大) 化学(東工大資源化学研究所)	第15回(2010年度) 農学(東北大) 物理(日本原子力研究機構)
第6回(2001年度) 工学(愛媛大) 生物(国際農林水産研究所)	第16回(2011年度) 医学(東大大学院) 生命科学(愛媛大)
第7回(2002年度) 物理(高エネルギー加速器研究機構) 医学(理化学研)	
第8回(2003年度) 物理(東北大) 医学(理化学研)	
第9回(2004年度) 生物(東大分子細胞生物学研究所) 物理(University of Washington)	
第10回(2005年度) 医学(自治医科大) 化学(理化学研)	

受賞者の応募時と現在の職位

准教授 → 教授 17名(52%)

助教・研究員 → 准教授 5名

計 22名(67%)

* 功労賞：日本女性科学者の会の研究推進や地位向上等に寄与した方や、会のために尽力し顕著な功績のあった会員を対象とし、賞状と記念品を贈呈しています。1996年6月の第一回贈呈以来、これまでに30名（うち男性2名）の方々が受賞されています。

2006年のNews Weekにおいて

世界が認めた日本人女性 100名

「か弱い蝶々」という固定観念を打ち破り世界を驚嘆させてきた日本人女性たち—
この20年間に政治、ビジネス、アート、音楽、サイエンス、スポーツ界で新時代を
切り開いた先駆者

PIONEERS 100

という特集が生まれ、サイエンス分野9名中、4名の方がSJWS奨励賞受賞者の中から
選出されている。さらに、その4名の中の1名は主要国際学術誌論文掲載数が世界第3位
にランクされています。

また受賞者以外でも

2011年 International Year of Chemistry(IYC:世界化学年)での女性化学賞をSJWS会員が
世界16ヶ国23名のうちの1人に選出されました。

- 4、女子中高生夏の学校に企画参加 2011年8月 東京
- 5、学術誌(Vol.12 No.1 2011)刊行
News (No.108、 No.109 2011)刊行
- 6、若手研究者人材育成、支援のための例会の開催 2011年12月 東京
- 7、支部活動として、年間を通して子供向けの理科教室、地域女性に対するサイエンスへの
啓発活動